

別記様式

		担当課	総合政策課
会議の名称	平成30年度 第4回鴻巣市まちづくり市民会議		
開催日	平成30年8月29日(水)		
開催時間	午前9時30分 開会 ・ 午前11時50分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎3階 302・303会議室		
議長(委員長・会長)氏名	会長 一瀬 隆一		
出席者(委員)氏名(出席者数)	一瀬隆一(会長) 松澤敏夫(副会長) 青木照男 神下光勝 日比暁美 船塚和雄 大森由恵 島寄武彦 佐藤百合子 (9名)		
欠席者(委員)氏名(欠席者数)	大山一郎 (1名)		
事務局職員職氏名	企画部副部長 齊藤隆志 総合政策課主任 新井洋平	総合政策課副参事 谷広明 総合政策課主事 千葉佳代	
傍聴者	なし		
次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 前回の議事及び本日の進行について 4 次回審議日程の変更について 5 議事 (1) 対象施策及び重点基本事業の、課題や問題を解決するために提案する取組の検証 Aグループ 3-1: 学校教育の充実 Bグループ 5-3: 観光の振興 (2) グループ審議の報告と、提言内容のまとめ 6 その他 ・ 次回の審議会の予定等について 7 閉会		
会議の内容	(決定事項など) ① 「4 次回審議日程の変更について」では、第5回審議予定日の9月26日(水)が議会日程と重なり一部事務局の出席が困難であることから、事務局から日程の変更を提案したが、調整が困難であることから変更は見送りとする旨、決定した。 ② 「5 議事(1)」について、Aグループ(会長進行)・Bグループ(副会長進行)に分かれ、第3回にて審議された施策の課題点等に対し、「課題や問題を解決するために提案する取組」を審議。 審議の結果、以下の内容をグループ提言案として、要点整理する。 ③ 「5 議事(2)」にて、各グループ提言案を報告しあい、本市民会議の総意としての提言内容とすることを確認。 なお、今年度審議した4施策の提言内容については第5回審議時に細部の修正を行い報告書としてまとめ、会長・副会長により市長答申を行うことを決定した。 ④ 2年間の市民会議を終えるにあたり、次年度以降の審議の進め方や要望事項についての意見をいただく旨、確認。		

【Aグループ 「3-1：学校教育の充実」】

《検討課題1》

●虐待問題の解決（心を育てること）

- ・命の大切さを学ぶ方策として、様々な場で花に触れることができるよう花壇環境整備をする。現状として、駅前通りに花がなく「花のまちこうのす」を活かせていない。
- ・校庭の芝生化を推進する。芝刈りや水やり等、子どもを中心にメンテナンスを行う。
- ・校内で小動物を飼育する。資源回収で資金をつくり、地域の力で小屋を造れるのではないか。
- ・学校給食の地産地消をさらに推進する。栽培地への社会科見学を行い、食育を活発化させる。
- ・学校に朝食を食べて来られない児童生徒に対する救済措置として、軽食を提供できるよう制度を構築する。

《検討課題2》

●研究事業の効果的な活用

- ・授業内容について、受験のための教育だけでなく、第二外国語の選択肢を増やす等の、行動が伴う教育を推進する。
- ・教員が研修を受講して得たスキルが、どのように生徒に活かされているのかを父兄に学校日より等で周知する。
- ・教員間でのコミュニケーションを活発化させ、スキルの情報共有を図る。

《検討課題3》

●鴻巣の文化を子どもたちに伝承する

- ・鴻巣市の名前の由来を知らない子どもが多い。市の文化を教職員自身が理解し、子どもたちに伝える。
- ・郷土かるたの更なる活用方法の検討。親子でかるたに登場する土地へ行き、体感することで文化を理解することができる。
- ・文化を伝承する出前講座を開催する。
- ・イベント等の情報伝達が効果的ではない。興味を持ってもらえる周知方法の検討。子どもを外へ引き出すことでコミュニティ形成も期待できる。
- ・リタイアした方の得意分野（人形づくりや紙芝居等）を活かすことが大切である（社会福祉協議会への講師ボランティア登録制度等）。文化を次世代へ伝える場となることが期待できる。

《検討課題4》

●子どもの創造力を伸ばす

- ・幼稚園から中学校までの一貫校を例（新潟県で実例あり）に、異年齢間での交流ができる環境を作る。子育ての疑似体験ができ、情操教育にもつながるのではないか。
- ・現在の「個人の能力を伸ばす」から、広い視野をもち社会を変える意識を持てる教育方針への検討。他者に意見を述べることを不得手とする日本特有の体質から脱却し、考えを発信できる子どもを育てることが重要である。そのために、グループ討議等のアクティブラーニングを推進する必要がある。
- ・子どもたちの創造性が発揮でき、発言力を伸ばす経験ができる環境づくりを推進する。余裕教室等を活用し、授業以外の枠組で活動をする。

≪検討課題5≫

●子どもとの関わり方の見直し

- ・余裕教室を地域に開放できる仕組みの検討。地域の方の居場所としても活用できる姿が理想。
- ・サマーキャンプや講座の情報に触れる場所がなく、知る機会が少ないため、情報を集約した相談窓口があると良い。市が独自にイベントの企画をし、他市にはない取組を検討する。これには、リタイア者の知恵を取り入れると良い。
- ・タブレット等の新しい教育手法を積極的に取り入れる。
- ・地域活動やPTA活動への積極的な参加促進のため、役員の負担を分散させる等の検討。
- ・スポーツ少年団等への入団には、子と親で参加意識に差があるため、地域で活動をサポートし、参加しやすい環境を整えることが必要である。
- ・昨今、指導者不足であるため、部活動へ地域の力（外部指導者）を積極的に取り入れたい。

施策全体に対する意見

- ・通学路の一斉見直しを要望したい。危険箇所を再確認し、災害時にも安全に通ることのできる別ルートを検討。

【Bグループ 「5-3：観光の振興」】

- ・7つの課題に対しては、市長への答申を踏まえて、最終的に文言の修正等を行うこととした。
- ・課題のさらなる掘り起こしを実施。
- ・観光に囚われず考えると、鴻巣市には様々な「資源」があり、それぞれ課題を抱えている。
「ものづくり大学」「パークゴルフ場」「スケートパーク」「免許センター」「パンジーマラソン」「川幅うどん」等、対象となる人たちを、それぞれの目的以外の「資源」に、いかに眼を向けさせるかが重要と考える。
- ・鴻巣市の観光に関するポテンシャルはあるのか、冷静に見極めなくてはいけない。
- ・日本人の人口が減少する中で、訪日客に対する観光を検討する必要があるのではないか。
- ・既定路線、いわゆるプラスの資源だけでなく、ネガティブな部分を生かさなければ、振興には繋がらなくなってきている。
- ・「観光の振興＝観光客の取込み」といった狭い視点で捉えるのではなく、免許センターの利用客等、市民も含めた人たちが、どこにお金を落とすのかを考えなくては地域の賑わい創出には繋がらない。
- ・観光ありきではなく、鴻巣市にあるもの（資源）を生かし、地域振興に関する取組を行うことで、結果的に観光に繋がれば良いのではないかという、逆の発想が必要であると考えます。

配布資料

- ・平成30年度第4回鴻巣市まちづくり市民会議 次第
- ・取組提案シート（事前配布）